

教育部会の取組と今後の方向性 レガシー①多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち

1 令和6年度の主な取組

1 市制100周年記念事業“学校e～ね★サミット”について NEW

●取組

当該取組を通じて、市立学校の児童生徒に、**もっと川崎を好きになってもらう**とともに、**多様性を尊重**し、共生社会の担い手として、児童生徒**一人ひとりが自分たちができることなどを考えて実践**する機会とする。

●実績

令和5年度から、全市立学校で自分の地域の魅力を調べ、よりよくするために自分たちにできることに取り組む学習活動を実施。令和6年度は、前年度の取組を踏まえ、**GIGA端末を通した学校間の交流**や**自分たちの取組を地域へ発信する活動**を推進した。

1 全ての市立学校の児童生徒が、地域の魅力を調べて、話し合う学習を実施



地域の方と一緒に取り組む清掃活動



市の魅力について調べ、話し合う活動

2 各校が、学習した内容をスライドにまとめて、GIGA端末にアップ



GIGA端末で他校と交流する様子



学校のイベントで地域の方に発表する様子

3 代表の8校が、市内の商業施設の広場で各校の取組を発表

発表校	
川中島小学校	稲田中学校
東住吉小学校	白鳥中学校
鷺沼小学校	田島支援学校
御幸中学校	高津高等学校



集合写真

全市交流会における各学校の発表（8校）のうち2校を紹介！

白鳥中学校

発表テーマ

誰もが安心して暮らせる地域にするために ～白鳥中学区にて～



地域の防災
マップづくりを通して
学んだことを発表

一人ひとりの尊い命が
災害で失われてほしくない！

田島支援学校

発表テーマ

手話で学校を盛り上げよう！

好きです かわさき
愛の街！



手話をつけて
みんなで歌う取組に
ついて発表

学校や地域に貢献することの
意義を強く感じました！

参加した教職員



一生懸命な子どもたちが多くいる
川崎がさらに好きになった！

参加した児童生徒



全員で楽しんだり実感できたりすることで、
川崎市の次のステージに繋がられる！

参観した方



教育部会の取組と今後の方向性 レガシー①多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち

1 令和6年度の主な取組

2 「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の軸をつくる教育の推進

●性的マイノリティへの理解促進

子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、**性的マイノリティへの理解促進プログラム**の実施や**多様な性の在り方について理解を深めるためのリーフレット**を配布

●その他

多様性を尊重する社会をつくる子どもを育む「**キャリア在り方生き方ノートを活用した実践**」を進めるとともに、「**インクルーシブ音楽プロジェクト**」や「**バリアフルレストラン**」など学校が参加



普段の

学校の教育活動から（東柿生小・5年生）

“少しの工夫や福祉のメガネで、誰でも同じに幸せによりよく楽しい人生を！”をテーマとした**福祉の体験型イベント「福祉まつり」**を2月21日に開催。保護者、地域住民、近隣の学校等に向けて、スライド発表、体験ブース等で**自分たちが学び、気づいたことを発信し、誰もが幸せに過ごせるまちづくりについて考え合う機会**となった。



視覚障害のある人も楽しめるように工夫した卓球の体験ブース

普段の教育活動においても、教育部会の掲げる**レガシーの形成に資する取組が展開**されている。

3 一人ひとりの教育的ニーズへの対応

●特別支援学校及び小中学校の児童生徒との居住地校交流の実施

特別支援学校と小中学校の子どもたち同士が互いを知り、関わりながらともに学び、相互理解へつなげる「**居住地校交流**」を引き続き実施

●その他

日本語指導が必要な児童生徒、**医療的ケア**を必要とする児童生徒**一人ひとりの教育的ニーズに対応した取組**なども継続実施



日本語指導の様子

2 令和7年度の取組の方向性

パラムーブメント推進担当が実施した令和6年度かわさきパラムーブメント意識調査において、「**相手の立場になって、物事を考え行動することができる中学生の割合**」は、**肯定的な回答が9割超となっている**。一方で、「**心のバリアフリーが子どもたちに浸透していると思った人の割合**」は、26.5%と令和5年度から1.8%増加しているものの、**依然として低い割合**となっており、引き続き、**地域の方々や他部会とも連携しながら、より一層、取組を推進**していく必要がある。

困っている人を見つけた場合、自分から積極的に声をかける・手助けをするなど、行動することはできますか。

できる	48.5%
困っている人から声をかけられたらできる	42.7%
できない	8.8%

子どもたちに心のバリアフリーの考え方が浸透してきていると思いますか。

浸透していると思う	3.1%
ある程度浸透していると思う	23.4%
あまり浸透していないと思う	32.5%
浸透していないと思う	13.5%
わからない	27.6%

教育部会の取組により、「多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち」のレガシー形成は、着実に進捗しているが、心のバリアフリーの浸透など一部に課題があることから、教育部会は、令和7年度以降も、「**学校e〜ね★サミット**」で充実を図った**多様性を尊重し、共生社会の担い手として、児童生徒一人ひとりが自分たちができることなどを考えて実践する機会の創出**に、引き続き取り組んでいく。

3 市民等の意見聴取

◆アドバイザーによる研修会の実施（岡田弘氏・前東京聖栄大学健康栄養学部管理栄養学科人文科学系カウンセリング室教授）

かわさきパラムーブメントのレガシーの形成に向け、児童生徒指導の中心的な役割を担う教職員や支援する指導主事の会議（2月26日開催、計140名が参加）において、**多様性を尊重する社会を意識した「教育的ニーズの高い児童生徒を指導する教員の育成」「これからの児童生徒指導・支援について」**をテーマに講義いただくことで、**先進的かつ専門的な知見を学び、課題の解決や新たなアイデアの創出**につなげた。

令和7年度については、令和6年度と同様に、アドバイザーによる教職員を対象とした研修の実施などを想定しながら、詳細は、令和7年度の教育部会で決定する。